

変わる中国の都市発展戦略

連携と調和を重視した戦略への転換

中国の都市発展戦略が大きな転換期を迎えている。各都市や周辺地域の独自の発展戦略を超えて、都市と地域の連携と調和に基づく発展を目指そうというのである。本稿では、その背景を踏まえながら、実例として重慶と上海の発展戦略の概要を紹介する（野村総合研究所・社会産業コンサルティング部著、日経BP企画刊『中国第三の波 濱海地区とTEDAの衝撃』参照）。

連携・調和を重視した都市発展戦略へ

2006年に発表された中国の第11次5カ年計画には、国家レベルの発展戦略の方針転換が示されている。そこには3つのポイントがある。環境・省エネの重視、格差を是正する調和の重視、都市・地域連携の重視である。都市や地域がそれぞれ独自に発展への道を追求するという従来の考え方を見直して、各都市間や、都市と地域の間での共存共栄を目指そうという姿勢がうかがえる。いわば“個人プレー”型の成長戦略から“チームワーク”型の成長戦略への転換と言える。

この動きの背景には、環境問題や格差の問題が無視できないほど大きくなっていることがある。中国の単位GDPあたりのエネルギー消費量は日本の約9倍にのぼり、省エネ対策は中国のどの都市や地域でも喫緊の課題である。また、一人あたりのGDPは省別で見れば10倍以上の開きがある。首都である北京市のすぐ隣には貧困村が多数存在し、最大の経済都市である上海市でも、面積で全体の10分の1程度の中心エリアと他の地域のレベル差が大きいという問題がある。都市が自身の競争力を高めることに意を用いる一方で、周

辺地域との役割分担を通じた総合的な発展の追求という、中心都市が本来もつべき役割が十分に果たされてこなかったのである。

最低限の公平性を担保するいわゆる調和社会の実現のために、長江デルタ経済圏や珠江デルタ経済圏、あるいは新興の渤海経済圏といった一部先進地域のための牽引力に頼る方法は、かえって全体のバランスを崩すことになりかねない。環境問題も含めて、これは個別の都市や地域だけで解決できる問題ではない。省エネ社会、調和社会、連携社会、いずれも個を超えたネットワークに基づく視点への転換が不可避になっている。

変わる都市整備の力点

“チームワーク”型成長戦略への転換は、人口1,000万人を超えるメガ都市を中心に、最近ようやく具体化されつつある。その典型的な例は都市整備の考え方の変化に現れており、とくに以下の3点について顕著である。

第一に、計画の範囲が拡大されたことである。従来の都市計画は、都市区域のみを対象としたものであったが、それに加えて都市の行政エリアを超える広域計画（空間計画、産業計画、交通計画など）のあり方が模索され

NRI上海
副総経理

葉華 (YE, Hua)

専門は都市政策、都市計画、地域発展
戦略



ている。長江デルタ地域計画（上海市および江蘇省・浙江省の16都市を中心）や、京津冀地域計画（北京市、天津市、河北省を中心）がその例である。第二に、都市構造の変革を念頭に置いていることである。都市中心部の機能をより高度化していくとともに、周辺に都市機能の拠点を作って広域連携に備えようとしている。第三に、都市における大規模広域型の交通・物流施設の整備が活発化していることである。外向型の交通ネットワーク、空港や港といったゲートウェイ施設、および都市・都市間鉄道の整備が都市インフラ整備の主役として登場しつつある。

NRIが協力する重慶・上海の発展戦略

野村総合研究所（以下、NRI）では2006年から、中国の直轄市（省と同格の行政区画）である重慶市と上海市において市長直轄プロジェクトに携わっている。

重慶市のプロジェクトは、同市の「中国西南地域の交通物流ハブ」を目指すという都市発展ビジョンを踏まえ、より国際的な視野のもとで中国西部および西南地域における将来的なポジションを確立し、長期発展目標と発展戦略を策定するものである。重慶市は人口約3,100万人（2005年末）の世界最大の都市で、西部地域唯一の直轄市であるとともに、三峡ダム水没区域からの100万人規模の移民も抱える都市でもある。本来、西部大開発の中心となるべき都市であるにもかかわらず、

周辺地域の発展を牽引するだけの力はまだないのが実状である。今後、いかに自身を国際的ネットワークの中に組み入れ、周辺地域と連携しながら重慶ならではの強みを発揮し、広域における牽引力としての役割を果たしていくかが課題になっている。NRIでは、交通物流ハブというコンセプトを具体化するための条件に焦点を当て、広域産業連携と広域交流連携を軸とした都市発展戦略、将来における国内外の“チームワーク”型発展を可能とする都市整備のあり方、およびITを駆使した周辺地域に対するサービスなどについて提案している。

一方、長江デルタ地域に位置する上海市のプロジェクトでは「メガ総合交通ハブ地域の発展戦略」がテーマとなっている。計画では、2010年までに空港、北京・上海間新幹線、上海・杭州間のリニア鉄道、さらに複数の都市鉄道のターミナルがシームレスに集結し、世界に類のない一大広域交通ハブが実現されることになっている。NRIでは、このようなメガハブを活かして長江デルタ地域の広域的な統合機能を育成しながら、いかにしてこれまでの独走的発展を超えて周辺地域を巻き込む成長戦略を構築するか検討を行っている。

2つのプロジェクトではともに中心都市の周辺地域に対する連携や統合が主要テーマになっている。それには、ITを基盤とした都市整備やサービスの実現もまた大きなカギになると考えられる。